

令和5年度長久手市地域福祉計画等策定推進委員会 会議録（要旨）

|               |  |
|---------------|--|
| 会議の名称         | 第4回長久手市地域福祉計画等策定推進委員会  |
| 開催日時          | 令和5年6月30日（金） 午後2時から午後4時まで  |
| 開催場所          | 長久手市保健センター3階 会議室   |
| 出席委員<br>（敬称略） | 平野 隆之                      加藤 圭子<br>横山 智絵子                  竹田 晴幸<br>川本 さつき                   鬼頭 和宏<br>水野 道子                      宗 絵美子<br>浅井 通正                      寺西 弘治  |
| 欠席委員<br>（敬称略） | 松宮朝 岡元洋子 水野美々子 住田敦子 吉田佳都子 川上雅也   |
| 事務局<br>（敬称略）  | <p>（長久手市）</p> <p>地域共生推進監                                      國信綾希<br/>地域共生推進課担当課長                              山田美代子<br/>地域共生推進課地域共生推進係長                      浅見景<br/>同主任    福岡喬</p> <p>福祉部長    川本満男<br/>福祉部次長    近藤かおり<br/>福祉課長    堤健二<br/>福祉課福祉協働係長                                      神藤貴司<br/>同主任    都築康成<br/>長寿課長    水野真樹<br/>健康推進課長    遠藤佳子<br/>健康推進課健康増進係長                                      近藤小百合</p> <p>（長久手市社会福祉協議会）</p> <p>事務局長    見田喜久夫<br/>地域福祉チーム    深谷美砂子</p> |
| 次第            | <p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>（1） 次期計画の骨子（案）について</p> <p>（2） 地域自殺対策計画策定について</p> <p>3 連絡事項</p>  |

|          |   |
|----------|---|
| 配布資料     | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 次第</li> <li>(2) 計画書の構成について(資料1-1)</li> <li>(3) 計画の位置づけについて(資料1-2)</li> <li>(4) 計画の体系図(資料1-3)</li> <li>(5) 計画の進行管理と評価指標(資料1-4)</li> <li>(6) 地域自殺対策計画策定について(資料2)</li> <li>(7) 第2次長久手市地域福祉計画 長久手市地域福祉活動計画<br/>長久手市地域自殺対策計画(当日配布)</li> </ul> |
| 公開・非公開の別 | 公開  |
| 傍聴者人数    | 0名  |

議事内容

| 議事  |   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>あいさつに代えて<br/>6月23日、24日に地域活性化センター主催の「地方創生実践塾 in 愛知県長久手市」が開催された。<br/>委員も参加し活躍されたことから、内容紹介していただく。まずは、実践塾の解説を。</p>   |
| 事務局 | <p>長久手で初めて泊まり込み研修で実施。地域活性化センターは総務省の地方創生系グループが関与している団体で長久手市からも延べ2人の職員を派遣している。企画部門の職員が戻る際のお土産として持ち帰ってきてくれたもの。<br/>通常の実践塾は観光資源や地方創生系の空き家対策などについて自治体職員や民間企業社員が集まり先進事例を学ぶケースが多いが、長久手では吉田市政12年間、地域共生という言葉に紐づく取組について試行錯誤してきた内容を振り返ることが目的で若手職員15名を研修の企画チームとして構成することで、部署横断的な振り返りを行った。全国でも初めての手法で、皆で過去の取組を振り返りながら現地点を確認する内容とした。<br/>長久手の宝は「人」、人がひとりひとり繋がりあっていく空間を大事にしてきたことを再認識する場となった。若手職員同士の結束も強まって人材育成の一助になったと実感している。</p> |
| 事務局 | <p>実践塾での取組内容を紹介<br/>モヤモヤする 考える→やってみた→うまくいかない→モヤモヤする 考える の循環を意識して過去の取組を振り返る内容とした<br/>1日目：吉田市長講話。地域共生に関する長久手の取組についての振り返り<br/>2日目：日本福祉大学吉村教授による講義ののち、フィールドワークという形で3名の特別講師を訪問<br/>①リリモテラス：(講師) tori&amp;coffee 服部 大介 氏<br/>②西小学校区共生ステーション：(講師) 宗 絵美子 氏<br/>③市が洞小学校区共生ステーション：(講師) 日東工業 大野 健弘 氏<br/>3日目：パネルディスカッションとグループワーク<br/><br/>※一実践塾で話し合われた成果についてスライドで御紹介一</p>  |
| 委員  | <p>実践塾では、いまステーションで行われていることを中心に話をした。地域共生や重層的支援に携わっている方の参加が多かった。<br/>自分たちの活動内容について紹介をした、なぜ実践できているのかと投げかけがあったが、フィールドワークが終わった後では、日々の小さな実践の積上げが結果につながっているのだなと改めて感じた。</p>   |

|  |  |
|--|--|
| 事務局  | <p>紹介した資料は国の地域共生社会検討会での資料を分かりやすく長久手バージョンに加工したもの。</p> <p>国で重層的支援体制整備事業を検討するなかで、全国の様々な100カ所ほどの事例を足を運んで見に行き、持続性があり、多様な人を巻き込めていて、取組に多様な広がりがある、事例の共通項が何かを確認するなかで、考えられる仮説をまとめたもの。</p> <p>「個別支援」と「まちづくり側で行っている活動」の重なる部分を大きくしていくことが重要で、重なりが大きくなればなるほど地域のセーフティネットが厚くなっていく。ポイントとなるのは、どうすれば重なる部分を大きくできるか、それには地域の中で「人を大事にしようという人権感覚」が広がっていくことが大事で、まちづくり側での気づきが増え、福祉側も自分たちで抱え込むだけではなく地域に助けを求めてまちづくり側とも手を組むことを意識するようになることが重要と感じた。</p> <p>そんな考えを整理した資料となっている。</p>   |
| 委員長  | <p>長久手では、吉田市長のもと、国が取り組むかなり前から地域共生社会の構築に取り組んできた。そのことを計画に盛り込んでいきたいと思う。</p> <p>歴史的な背景や取組、これまでの取組みを踏まえた課題について委員の皆さんに認識してもらってから議論をすすめていきたい。</p>   |
| 委員   | <p>現市長が今年8月で退任される。吉田市政が取り組んできた成果を活かし、さらに大きな木として育てて行かなければならない。</p> <p>吉田市長が率先して取り組んできたことを今後もしっかり引き継いでいってほしいと思う。</p>   |
| <p>(1) 次期計画の骨子(案)について<br/>(資料1-1、1-2、計画の体系図、1-4に基づき、事務局から説明)</p> |  |
| 事務局  | <p>昨年度は計画の材料集め、そして市民意識調査やワークショップ、現行計画の振り返りなどを行ってきた。今年度については計画の形づくりとして骨子、それから素案の作成、パブリックコメントの実施、計画書の承認というような流れで、委員会の皆様のご意見をいただきながら進める予定。</p> <p>資料1-1 計画書の構成について原案説明。</p> <p>資料1-2 計画の位置づけについて説明。地域福祉計画は、地域福祉を推進するための理念や仕組みを示す計画として、本市のまちづくりの指針となる総合計画に基づき策定。地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が民間の行動計画として定めるもので、地域福祉計画の理念に沿って共同して策定。</p> <p>計画の体系図について説明。基本理念は現行計画を維持</p> <p>基本目標(1~5)についてと、行動目標(1~14)について解説。庁内検討チームで、現在の皆さんの活動の状況であったりとか、それぞれの関係性を振り返るとともに、今後の伸びしろであったりとか、協働の可能性など、将来に向けた話し合いを進めてきている。</p> |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>資料1-4 計画の進行管理と評価指標について説明。厚労省の策定ガイドラインの中で示されている、直接的な成果だけでなく、そのひろがりも大切という記載がある。計画の進行管理については、事業の件数や実施状況で評価するのではなく、身の周りで起きている変化をエピソードとして集めて、数字でははかれない地域の変化をキャッチしたい。</p> <p>また、市民意識調査から、「助けを求める事ができる人の割合」令和9年度に35%、「つながりが強いと感じる人の割合」令和9年度に40%。上記2つを計画の評価指標としていくこととしたい。</p> |
| 委員長 | 説明を受けて、いろいろとご意見を伺いたい。  |
| 委員  | <p>実践塾の資料を見て、「モヤモヤする、考える→やってみた→うまくいかない→モヤモヤする、考える」の循環まさしくそのとおりだと思う</p> <p>そういう取組があったことを後で知って参加できれば良かったと思った。そのようなディスカッションの機会がたくさん持てると良い</p>   |
| 委員長 | <p>相談支援制度でカバーできる範囲は相談支援どまりのため、今回の図には含まれていない状態。</p> <p>委員の話聞き、地域で要支援者と関わろうとする人たちも地域福祉人材の図に含まれているべきだと思った。</p> <p>「個別支援」と「まちづくり側で行っている活動」が重なる部分が「どれだけ膨らんだか」を評価指標として測れると良いのではないか。</p>  |
| 委員  | <p>介護従事者やケアをする人達が地域福祉人材の図に入っていないというのは感じていた。当事者も地域福祉の視点を意識していないわけではない。参加と活動という観点、暮らしている地域への参加を意識していくよう、研修などでは啓発に取り組んでいる。</p> <p>基本理念の継承について、上位計画の基本理念が下位計画にもしっかりとつながっていくべきと考えるが、実際につながっていくことになるか。</p>   |
| 委員長 | 後ほど事務局から回答をお願いするようにしたい。  |
| 委員  | <p>主人が要介護状態となり在宅介護をする中で長久手市の切れ目のない支援を実感した。</p> <p>委員のお話を聞き改めて感じたが「つながる」場が欲しいという声が圧倒的に多い。行事やイベントなど「つながる」機会が減って、特に長久手市に近い地域では新しい人たちも多く「つながり」が希薄になっている。地域で「つながり」を作っていく必要性を強く感じている。</p>  |
| 委員長 | 母親のレスパイトに関しては考え方を詳しくお聞きしたい。  |
| 委員  | 長久手市には若いお母さん世代が多く、理由によらず預けられる施設やサービスが求められている。お母さんたちに自由な時間を差し上げたい。  |
| 委員長 | 困ったときに困ったといえる、頼れる先があると良い。  |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | 支え合うというテーマについて、西小学校区では地域の支え合いができていていると感じている。顔の見える関係ができていているので、支援が必要な方の情報が自然に共有できていて、それを福祉側の専門職の方々が拾い上げることで支援が繋がっている状況。  |
| 委員長 | まちは新しくなっても、古くから積み上げてきた社会資源（ソーシャルキャピタル）の強さも残されている。それを活かしていくという視点も必要と思う。  |
| 委員  | 地域福祉人材の状況について、地区社協—社会福祉協議会—CSW の連携の中で問題の把握や解決ができていている。そんなエピソードやメッセージを盛り込めると良いのではないか。  |
| 委員長 | 地域のエピソードとして良い芽ができていていることを取り上げていくのが良いと感じた。<br>計画書の中にもエピソードコーナーを設けるなどして今後の目標像を示す、あるいは、このようなエピソードがあるので計画に盛り込んだといった考え方が良い。まずは事務局にエピソード収集と協議の機会を作ってもらいたい。            |
| 委員  | 地域の事業者としてどう関わっていったら良いか、なかなか見えない状況がある。   |
| 委員長 | 久留米などでは自営業の方々が地域福祉に関わっている事例もあると聞くので、機会があれば御紹介したい。   |
| 委員  | 地域ではみんなの目があるといいながらも、ひとりひとりを監視するわけにもいかない、シニアクラブ活動が活発化すると自然に情報が集まるような状態を作れるのではないか。  |
| 委員長 | 市長が提案している「民×民」で問題を解決するという考えを、行政計画としては難しい面もあると思うが、計画の行動目標にも取り入れていても良いのではないか。<br>「官」が怠けるという受け止め方にならないよう、「民×民」の力を活かすという方向性をうまく取り込めるよう工夫できないものか。                    |
| 事務局 | 市民の力で市を動かすという事例や取組はどんどん増えている。そのような中で、20年30年住んでいる方が地域活動の中心になっていると感じているので、そういう人達をターゲットに様々な取組をしていくのが効果的と考えている。<br>自由になる時間が増えてきた人達に地域づくりに目を向けてもらえるような仕掛けをしていきたいと思う。 |
| 委員長 | 目標の中に、新しい市民が「参加しやすい」取組という考えも是非入れていってほしい。  |

|   |   |
|---|---|
| 事務局   | いろいろな人を巻き込むという観点は、基本目標5「たつせがある」がまさにそういうことなので、新しい基本目標ということではなく「たつせがある」というテーマのなかで充実させていきたい。   |
| 事務局   | 新しい住民という目線で行わせてもらおうと、長久手市の過去の取組を知り・振り返ることで理解しつつ、未来のあるべき姿を考えるという視点も大事だと思う。どういう発信をすると、届くべき人に届けたいメッセージが届くのかを、皆さんに意見を聞きながら考えていきたい。  |
| 委員長   | 計画書の構成、本市の現状と課題の中に、本市の取組の歴史や社会資源蓄積の経緯などを整理して入れ込んでほしい。<br>冒頭のパワーポイント資料（実践塾）図のイメージが良かった。エピソードと併せて計画の狙いの中に「取組の芽」がでてきていることも紹介してみてはどうか。また、市民が手に取って見たくなる内容や表現を工夫してもらいたい。  |
| 委員  | 様々な活動がバラバラではなく、つながってきている状況が良いと思う。住んでいる地域では集会所で多くの取組が行われていて月曜から金曜の午後は全て予約でうまっているという状況がある。他の地域でもそのような取組が広がっていくと良い。  |
| 委員長   | ステーションは一定の大きさが必要だし、集会所はより小規模になるが、圏域の層別にも居場所等を整理しておきたいという話もでていたので、地域の居場所マップまでいくかは別として整理してもらおう。<br>また、引きこもりの若者支援をN-ジョイで行うという取組もあったと思うがうまくいったのか。   |
| 事務局<br>(社協)   | 取組は順調に進んでいると聞いている。多い日には7～8名の利用者がある。   |
| (2) 地域自殺対策計画策定について<br>(長久手市の自殺の現状、基本施策別の評価指標、自殺総合対策大綱のポイントを事務局から説明) |   |
| 事務局   | 地域自殺対策計画について説明。<br>自殺を防ぐためだけの対策というものではなくて、自殺対策としては、地域における人と人、人と社会資源のつながりを強化することが重要であり、地域福祉計画の策定委員会で一緒に策定を進めている。<br>現行計画でも、地域福祉計画の基本目標と同じものを地域自殺対策計画として掲げ評価指標を設定し施策を推進している。<br>地域福祉計画、活動計画にある基本目標と同じものを地域自殺対策計画の基本目標としている。市民意識調査などの回答結果をそれぞれの評価指標としている。指標全ての割合が前回の結果や目標値を下回る結果となっており、コロナ禍の影響も大きいのではと推察している。<br>令和4年10月に国から自殺総合対策大綱が発表されている。今後新たに取り組むべき施策として「子どもや若者の自殺対策のさらなる推進・強 |

|         |  |
|---------|--|
|         | 化」、「女性に対する支援の強化」、「地域のネットワーク構築など地域自殺対策の取り組み強化」、「コロナ禍の影響を踏まえた対策の推進など、総合的な自殺対策のさらなる推進・強化」が挙げられている。  |
| 委員長     | 国の大綱で女性や子ども・若者に対する対策強化にはレスパイトなどの視点も含まれてくる。直接の自殺対策とは別になるとしても、特に子ども・若者、女性に対する対策は重視すべきと思うので、地域福祉計画の中で盛り込んでいってもらえると良い。   |
| 委員      | 人づくりの対象となっていない（長久手市の地域福祉人材の状況に記載がない）市民ひとりひとりの意識を変えていくことが重要。ちょっとしたことで傷つくことの積上げがダメージになるので、市民や住民、個人が気づく・言える環境を作ることが大事で、活動を担っていただいている人たちの周りにはいる市民の意識が変わっていくことが必要と感じている。<br>意識調査では出てこない部分が多いので、評価指標として数値で測るだけでは見えない事が多いのではないかと。アンケートを取るときにも個々の経験やエピソードを集めることで評価をしたほうが良いと思う。 |
| 委員長     | 人づくりについて、地域福祉人材の絵とは違う形で考える必要があると思った。アンケート調査への問題提起に関しては、モニタリング調査（市民モニタ／地域福祉モニタなど）を試してみるのも一つの方法ではないか。  |
| 事務局（社協） | 改めて声を聴きにいくというよりも、現状の活動の中で見聞きした情報をしっかり伝え共有していくことが良いと思う。   |
| 事務局     | 計画のつながりとしては、「たつせがある」の部分を軸につなげていくように策定していく。福祉とまちづくりの両方を経験してきたので、「個別支援」と「まちづくり側で行っている活動」の重なりについてはよく理解できる。<br>共生ステーションでも自然にモニタリングが実践されている部分もあり、ケアマネの訪問調査でも見守り的な情報収集をしている状況もある。<br>地域福祉人材については、絵に書き切れない部分がたくさんある。もしかしたら3Dや4Dの絵として考えるべきことかと思った。                             |
| 連絡事項    |  |
| 事務局     | 会議録はHPにて公開していく予定。次回は9月頃を予定している。決まり次第改めて連絡させてもらう。   |
| 意見・質問   |  |
| 委員      | 人材状況の図のなかで、生活支援コーディネータが二箇所出ていて一層と二層とある、違いについて教えてほしい。<br>また、図中で「お互い様」と「おたがいさま」が混在しているので統一した方が良い。  |
| 事務局     | 一層は市全体を、二層は小学校区別を担当している。   |